



かわ

鈴木のりたけ作 幻冬舎

山に降った雨は岩場をくだり、より低い場所を目指して大きな流れとなります。「かわ」の始まりです。水は源流から溪流、やがて里川へと流れていきます。そんな水が水蒸気となつて雲になり、山にぶつかる雨になるのです。水の壮大な旅はそうしてずっと続いていきます。

この本のユニークなところは、水の中からの視点で描かれていること。命を育むために欠かせない水。それを運ぶ「かわ」は様々な命であふれています。あなたもこの本で豊かな自然の姿をのぞいてみませんか？

